

特集 安心して暮らせるまち



消防は、日夜、火災の予防はもとより、救急・救助から自然災害などの対応まで広範囲にわたり、市民の皆さんが安心して暮らせるよう安全の確保に努めています。

災害から市民を守る

昨年、全国で6万394件の火災が発生しました。これは、1日当たり約165件、約9分に1件の割合で全国のおどこかで火災が発生していることとなります。また、この火災で1千993人の尊い生命が奪われ、負傷者は8千646人を数えました。

市内では、昨年27件の火災が発生し、7人の死傷者が発生しました。

また、救急車の出動は全国で約503万1千件あり、1日当たり約1万4千件、1分間に約10台の救急車が出動していることとなります。市内では、昨年約2千件の救急車の出動がありました。

登別市の消防は、大正2年に登別温泉地区で青年会消防部として発足し、その後、組織や制度、施策などの取り組み、施設や資機材の充実・強化が図られ、現在、消防本部と消防署（本署、登別温泉支署、登別支署、鷺別支署）に勤務する88人の職員と149人の消防団員の協力と連携で、火災の予防や消火をはじめ、救急・救助から地震・風水害への対応まで、市民と観光客の安全確保に努めています。また、救急活動では、高規格救急車の導入を平成8年から行い、救急救命士の乗務を開始していま

す。さらに平成16年から気管挿管などの高度な応急処置ができるようになり、病院前救護体制の充実を図っています。

毎年、救急出動件数が増加していますが、安易な利用が多数見受けられ、緊急に必要な方に対応できないことも考えられますので、正しく利用するようにしましょう。



消防署



高規格救急車